

事業紹介

女性の政治参画講座

「声を届ける」ところから

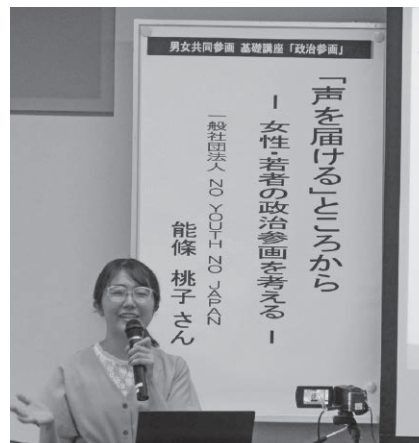
8月20日実施
210・211研修室

若い世代の政治参加の促進に取り組んでいる能條桃子さんを講師にお迎えしました。まず、能條さんがどのように政治やジェンダーに興味を持ち、取り組むようになったかという経緯の紹介がありました。ここ15年ほどの日本の政治とジェンダーに関する状況を参加者も振り返ることができました。

- 小6の夏休みに市の青少年議会に参加した。市長が女性だったため、女性が働く場が教師や店員の他にもあることに気づいた。
- 私立高校に入学した際に、経済的に恵まれた環境の人ばかりとなり、多様な家庭環境があった公立中学校とは状況が異なることに気づいた。
- 大学時代に若い世代にも固定的性別役割分担意識が根強くあることに疑問を感じた。
- デンマークの国政選挙があった時期に留学した。投票率80%超えという「民主主義の担い手を育てる土壌」を体感でき、留学中に日本の若者にむけて政治参画を促す活動を開始した。

次に、女性と若者が地方議会に少ない現状の説明があり、能條さんの取り組みの紹介がありました。

- ①若い世代の投票率向上、②被選挙権年齢の引き下げ、③政治分野でのジェンダー平等、という3つの課題に主に取り組んでいる。
- 政治参加は立候補と投票だけではない。SNSでの発信、署名活動、選挙ボランティアなど、「私にもできるかも」と思える身近な取組みが多くある。
- 男女平等の実現のための「長い列に加わる」という言葉がある。私も列に加わり、社会を今よりも少しでも良い状態にして次の世代に渡したいと考えている。



一般社団法人
NO YOUTH NO JAPAN
代表理事 能條 桃子さん

参加者の声

「声を上げれば、ちゃんと届く、変わる」一人ひとりの政治参加が大事だとわかりました。

事業紹介

LGBT講座

性的マイノリティを理解していく 歩みを止めないために

2月4日実施
210・211研修室



九州大学大学院人間環境学
研究院 講師
井上 智史さん

参加者の声

「^{なんびと}基本的人権」は何人も犯してはならない!と思っている。自分らしく、生きられる社会の理解がもっと広がるといい。

当事者がその場にいるから対応するというだけでなく、いるかもしれないと考え、排除しない社会の仕組みをつくっていくことが求められます。

性的マイノリティに関して国民の理解を広めるため「LGBT理解増進法」が2023年6月に施行されました。LGBT当事者は、周囲の人の無理解や偏見から、生きづらさを感じる場面が数多くあるといわれています。

2月4日、これらの問題について正しく理解し、偏見や差別を解消するため九州大学大学院講師の井上智史さんを講師に招き、講座を開催しました。

- 性のあり方が多数派の人と何らかのかたちで異なっている人びとのことを性的マイノリティという。性的マイノリティが経験する生活上の困難として、学校教育、就労における困難、家族からの排除、貧困問題、災害における脆弱性などがある。
- 学校教育では、小学校・中学校・高校の学校生活におけるいじめ被害の経験率は58.2%に達している。性的マイノリティの存在を想定していない学校の慣習等がその背景にある。
- 労働市場への障壁としては、「求職・就職活動」の段階から「規則・環境整備」、「いじめ・ハラスメント・無理解」、「カミングアウト・アウトティング」など多岐にわたる。
- どんな場面で、誰が生活上の困難や生きづらさを感じているのかを想像し、自分の生活している範囲で当たり前になっていることへ問いかけをする、常識を疑ってみることが重要。

